

中学3年生の進路意識の変容と高校選び

— 定期的調査から見取る意識向上の要因と情報への接し方 —

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 堀井孝

1. 本稿の課題

2020年度、高校への進学率は98.8%であり、中学生にとって高校進学はほぼ当たり前といえる。本研究では山梨県における中学生の進路意識について扱う。本県で中学校受験は一般的とはいえ、高校受験が人生初の受験となるものが多い。そのため進学先を選ぶことに対して意識が芽生える時期が早いとはいえ、複数校の候補の中から主体的に進路を選ぶことに戸惑う者が多い。中学生の進路意識についての研究として、例えば粕谷・市来(2018)が中学1、2、3年の学年ごとに進路意識を比較し、学習意欲が高いことが、進路意識を支える大きな要因であると報告している。中学3年生では、友人との関係性や、教師との関係性についても、進路意識を支える要因であるとして、人との関わりの中で自己形成をしていく環境の重要性にも触れている。また、吉野(2013)は、中学生の進路意識の在り方を調べ、高校からの情報提供の方策として学校説明会の有用性を説いている。この研究は埼玉県で行われたものであり、中学校受験が一般的に浸透している地域であることや、比較的高校の数が多く、男子校や女子高、私立高校も多い地域での高校選択について調査分析されたものであるため、本県の現状とは様相が異なる部分が多いと考えられる。

筆者は以前、高校生を対象とした中学生時の進路意識についての研究の中で、学力の高い者と低い者では塾や学校の教員、保護者のアドバイスの受け取り方が違うことや、受験校を決める際に重要視する要素に違いがあること、普通科とそれ以外の学科の間には高校進学への目的意識に差があることを示した。

前述のように、中学受験が一般的ではない地方において、高校受験は初めての進路選択、初めての受験となる生徒が多い。そのような状況で中学生が高校をどのように選び、高校受験に向けて進路意識がどのように変化していくかを調査することは意義がある。本研究では本県中学生の高校選びに対する意識が向上する時期や、そのきっかけとなった出来事について調査を行う。また誰から、どんな媒体からの情報をどの程度参考にしているか、どんな要素を重要視して高校選びを行うかについて、受験生である中学校3年生の意識の変容を見取ることを目的とする。

2. 調査方法について

実習先であるK市内の中学校(1学年70人規模)の中学校3年生を対象として、6月、9月、11月の3回にわたり、質問紙法によるアンケート調査を行った。このアンケートの表面は3回とも同じものであり、数値で回答してもらうことにより、集団としての意識の変容を見取することに主眼を置いている。また、1クラス34名(男子17名、女子17名)を対象にOPPシートを記入してもらい、進路意識の変容を見取った。OPP(One Page Portfolio)とは、生徒が一枚のシートの中に学習の履歴を記録し、それを自己評価させる方法であり、生徒自身が自らの記述から変容の履歴を振り返ることができるよう設計されたシートである。本研究では中学生が自らの進路意識の変容を1枚のOPPシートに記録することとし、1枚のシートからその生徒自身の進路意識の上昇や下降が数値で見取れるように作成した。さらに意識変容のきっかけとなった「変化の理由」も併せて書く欄を設け、どんな出来事

がどのくらい、その生徒の進路意識に影響を及ぼしたかを調査した。OPP シートの記入は2～3週間に1度行ったが、6月から12月までの実施期間中、7月6日から9月21日の期間については、中学校の夏休みや新型コロナウイルスの影響により、データを取れなかった。

3. 調査結果と考察

(1) OPP シートより

調査に用いた OPP シートを表 1、生徒が実際に記入した OPP シートを表 2 に示す。表 2 に例示した生徒が記述した数値は、上から 15、11、12、14、15 と推移している。この数値はそれぞれ「前回調査時の進路意識を 10 としたときの今回の進路意識」である。つまりここに書かれた数値が「10」ならば前回から変化なし、9 以下なら意識が下降、11 以上なら意識が上昇したとみなしている。表 2 に挙げた生徒は、7月から11月にかけて、10（変化なし）以下の数値がないため、進路に対する意識が上昇し続けているということが数値から見て取れる。

表1 進路意識の変容を見取る OPP シート

高校選択の意識変化に関するOPPシート		氏名 ()	
前回の記入から今までの間に、進路への意識が変わった点を記入してください。成績評価には使いません。書きにくいことは書かなくてよいです。			
回数	日付	前回の進路意識を10とすると今はいくつ? (変化なしは変遷でよい)	進路に関する意欲、悩み、不安など (変化なしは変遷でよい)
1	/	/	
2	/		
3	/		
4	/		

表2 生徒が実際に記入した OPP シート

高校選択の意識変化に関するOPPシート		氏名 ()	
前回の記入から今までの間に、進路への意識が変わった点を記入してください。成績評価には使いません。書きにくいことは書かなくてよいです。			
回数	日付	前回の進路意識を10とすると今はいくつ? (変化なしは変遷でよい)	進路に関する意欲、悩み、不安など (変化なしは変遷でよい)
1	6/15	/	
2	7/16	15	行きたいところか1つある。テストの点ばかり不安。
3	9/21	11	到達度テストかこぼさるから。勉強もテスト用いらい長時間集中できない。
4	10/5	12	サマーテストがあるから。前期と後期どちらにするか悩んでいる。
5	10/26	14	二考入試があるから。中間テスト追加いから。集中できない。
6	11/16	15	校長会テストがあったから。高校いけるか不安。
	12/7	15	三者懇談があったし、テストが少なくなったから。よく直し

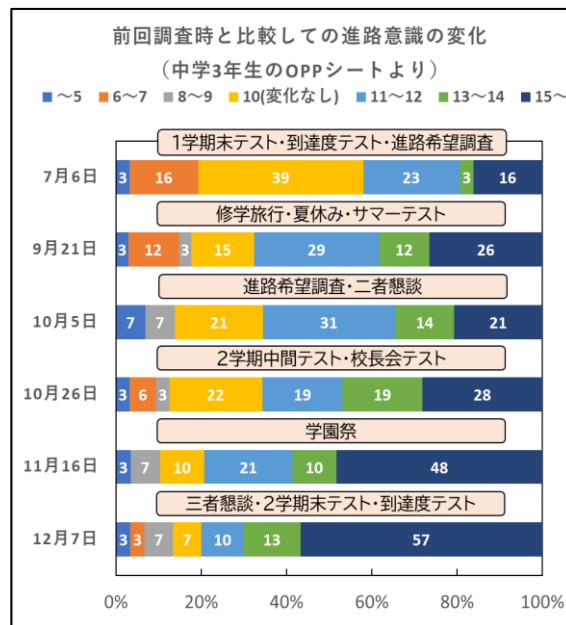


図1 OPP シートの数値変化の様子

図1は、1クラス分の OPP シートについて、調査した日ごとに値を集計したものである。欠席者の関係などで毎回の実施人数が同じではないため、パーセンテージを用いて結果をまとめている。グラフの間には主な学校行事や進路関連の行事を記入した。7月6日の調査では、前回（6月25日）と比較して進路意識が下降、もしくは変化なしと答えた者が合わせて58%と半数を超えた。この間の学校行事として1学期末の定期テストや自らの実力を測る到達度テスト、高校名を記入させる進路希望調査など、自らの成績や高校について考えるものが複数設定されていたにもかかわらず、意識が向上した者が半数に満たなかったことは興味深い。「10（変化なし）」以下の数値は、夏休み明けの9月21日には33%と大幅に減少したことから、夏休みを挟んで進路意識の変容が起きているといえる。進路意識が大きく上昇した「15～」の層を見ると、10月26日の28%から、11月16日の48%を経て12月7日には57%と増加している。これはコロナ禍で延期された学園祭が終わり進路検討に本腰を入れたこと、受験が間近に迫り、焦りが出てきたことなどが要因として考えられる。

表3は、生徒が数値記入欄に11以上の数値を記入した、つまり意識の向上が見られた際

表3 意識が上がった際の「変化の理由」

意識が上がった(11以上)と答えた際の「変化の理由」～11/16	延べ人数
サマーテスト・校長会テスト	25
志望校が決まった	18
受験の話、二者懇談、三者懇談	18
定期テスト、内申点	13
高校を調べた、見に行った	10
進路希望調査	7
時期的な焦り	5
塾での出来事	3
友人との話	2
親との話	2
入試が終わった	1
出願が終わった	1
部活が終わった	1
唐突に	1

の「変化の理由」を集計したものであり、どんな出来事がきっかけで中学3年生の進路意識が上がったのかがわかる。12月に入ると懇談により具体的な受験校や受験方法が決定し、前期入試を受験する者とそうでない者として意識に差が生まれるため、集計の期間は11月16日までのものとした。各種テストや懇談、進路希望調査など、表3において上位に来る理由の多くが、中学校で行われている行事である。「志望校が決まった」や「高校を調べた、見に行った」、「時期的な焦り」などについても、担任をはじめとする中学校教員の働きかけや、学校生活における他者との関わりが進路意識に大きく影響した結果だと考えられる。特に友人との関わりの中で、彼らがどのような進路意識を持ち、どんな学習をしているか、友人から刺激を受ける者は非常に多い。行事そのものから受ける影響と、それをきっかけとして周囲の人間から受ける影響とが混在している可能性がある。堀井・佐藤(2022)の調査では、山梨県内の高校1年生を対象としたアンケートから、高校進学の際に参考にしたアドバイスとして、塾の先生方と学校の先生方のスコアが同程度であるというデータが得られている。しかし表3において「塾での出来事」を答えた者はのべ3名であった。この

ことから、進路意識の醸成や向上という点に絞ると、学校生活や学校が行っている進路行事や、学校で行われるテストが果たす役割が非常に大きく、中学校での生活そのものが高校への進路意識の基盤を成していると言える。

以下に示す表4は、表3と同じ期間に行った全6回の数値記入の中で、その個人が最も大きい値を書いた時の変化の理由を集計したものである。例えば表2に示した生徒では、7月6日と11月16日の2回とも前回比較の数値が15となっているため、この2回の変化の理由を集計した。調査対象者が34名であるが、合計がそれを上回っているのは、表2の生徒のように最高値を2回書いた者がいるためである。この表4から、中学生にとって強く進路意識を向上させる出来事を把握できる。上位の項目を見ると、志望校が決まること、実力を測るテストがあることやその結果が適切にフィードバックされること、ホームルームや懇談などで中学校の教員や保護者を交えて受験に関する真剣な話をするなどが、中学生の進路意識を大きく高めている。

表4 生徒個人で最も意識が上がった際の「変化の理由」

最も意識が上がった際の「変化の理由」～11/16	人数
志望校が決まった	10
サマーテスト・校長会テスト	8
受験の話、二者懇談、三者懇談	6
定期テスト、内申点	5
高校を調べた、見に行った	4
進路希望調査	1
入試が終わった	1
唐突に	1

(2) アンケートより

6月、9月、11月と3回にわたってアンケートを行った。そのうち、共通の設問が以下に示す表5である。また裏面に載せた回ごとに異なる設問を表6、表7、表8に載せる。

まず、全3回にわたって共通の質問を行ったアンケート表面(表5)の結果を、図2、図3、図4、表9、表10、表11、に示す。各回とも欠席者がおり、アンケートへの回答数が毎

表5 アンケート表面(3回共通の部分)

中学校3年生の進路意識に関するアンケート

山梨大学教職大学院 教育学研究科 M21EF009 堀井孝

私は現在、中学生の進路選択について研究を行っています。このアンケートの回答は、研究の目的以外に使用することはないと、私と、私が指導を受けている教員以外には閲覧できないよう厳重に保管します。アンケートの回答は成績には関係しません。思った通りに答えてもらえると幸いです。

番号 () 氏名 ()

1-A、あなたが高校について情報を得るとき、誰に聞きたいですか？
当てはまる番号にひとつに○をつけてください。

4 (絶対に聞く) 3 (できれば聞きたい) 2 (あまり聞かない) 1 (聞かない)

(1) 中学校の先生方	4	3	2	1
(2) 塾の先生方 (塾に行っている人のみ○をつけてください)	4	3	2	1
(3) 保護者	4	3	2	1
(4) 上記(1)(2)(3)以外の大人	4	3	2	1
(5) 兄や姉 (いる人のみ○をつけてください)	4	3	2	1
(6) その高校に通う先輩	4	3	2	1

1-B、あなたが高校について情報を得るとき、何を使いますか？
当てはまる番号にひとつに○をつけてください。

4 (絶対に使う) 3 (できれば使いたい) 2 (あまり使わない) 1 (使わない)

(1) 高校のパンフレット	4	3	2	1
(2) 学校説明会やオープンスクール	4	3	2	1
(3) 高校のホームページ	4	3	2	1
(4) 高校のホームページ以外のWebサイト(ロコミなど)	4	3	2	1

2、あなたが高校を選ぶとき、以下のことをどのくらい重要視しますか？
当てはまる番号にひとつに○をつけてください。

4 (とても重要) 3 (少し重要) 2 (あまり重要でない) 1 (全く重要でない)

(1) 通学のしやすさ	4	3	2	1
(2) 自分の学びたいことが学べるかどうか(○○科、○○コースなど)	4	3	2	1
(3) 高校の学力レベル	4	3	2	1
(4) 高校の進学実績	4	3	2	1
(5) 先生方や先輩方の雰囲気	4	3	2	1
(6) 制服のデザイン	4	3	2	1
(7) 部活動の活動実績	4	3	2	1
(8) 学校行事の充実度	4	3	2	1
(9) 高校の評判(親、兄弟、知り合いからの情報)	4	3	2	1
(10) 高校の評判(ネット上の情報)	4	3	2	1

表6 1回目(6月)のアンケート裏面

●あなたが、どの高校に進学しようかと最初に考え始めた時期はいつ頃ですか？ (1つに○をつける)
・小学生のころ ・中学1年生のころ ・中学2年生のころ
・中学3年生になってから ・まだあまり考えていない

●そのきっかけを覚えていれば書いて下さい。

●今の段階で、第1志望は明確に決まっていますか？ (1つに○をつける)
・明確に決めている ・「ここかな？」という高校が1つある
・行きたい高校が2校、またはそれ以上あって悩んでいる ・まったく決まっていない

●あなたが今、高校選びに関して悩んでいることがあれば、教えてください。

●あなたが高校の情報で、いま最も知りたいことは何ですか？

ご協力ありがとうございました。

表7 2回目(9月)のアンケート裏面

●今の段階で、第1志望は明確に決まっていますか？ (1つに○をつける)
・明確に決めている ・「ここかな？」という高校が1つある
・行きたい高校が2校、またはそれ以上あって悩んでいる ・まったく決まっていない

●山梨県の公立高校入試には前期試験と後期試験があります。あなたの今の気持ちに近いものを教えてください (1つに○をつける)
・前期試験で受験したい ・後期試験で受験したい
・まだどちらともいえない ・公立高校を受験しようと思っていない

→その理由を教えてください。

●この夏休み中に、オープンスクールや学校説明会、部活見学など、高校が主催するイベントに参加できましたか？ (はい ・ いいえ)
→「はい」と答えた人
どの高校のどんなイベントに参加できましたか？ 複数ある場合はすべて書いてください。
() 高校の () に参加した ()
() " " ()
() " " ()
→「いいえ」と答えた人
その代わりになる活動を何かしましたか？ (当てはまるものに○をつける)
・高校のホームページを見た ・高校のパンフレットを見た
・その他 ()

●あなたが今、高校選びに関して悩んでいることがあれば、教えてください。

●あなたが高校の情報で、いま最も知りたいことは何ですか？

ご協力ありがとうございました。

表8 3回目(11月)のアンケート裏面

●今の段階で、第1志望は明確に決まっていますか？ (1つに○をつける)
・明確に決めている ・「ここかな？」という高校が1つある
・行きたい高校が2校、またはそれ以上あって悩んでいる ・まったく決まっていない

●山梨県の公立高校入試には前期試験と後期試験があります。あなたの今の気持ちに近いものを教えてください (1つに○をつける)
・前期試験で受験したい ・後期試験で受験したい
・まだどちらともいえない ・公立高校を受験しようと思っていない

→その理由を教えてください。

●あなたは、いくつの高校の学校説明会やオープンスクール、部活動体験などに参加しましたか？
実際に現場で体験できたもの () 校 オンラインで体験したもの () 校

●あなたは、いくつの高校の学校パンフレットを読みましたか？ () 校

●あなたは、いくつの高校のホームページを見ましたか？ () 校

●あなたが今、高校選びに関して悩んでいることがあれば、教えてください。

●あなたが高校の情報で、いま最も知りたいことは何ですか？

ご協力ありがとうございました。

回異なるため、図2から図5までの各グラフの集計において、パーセンテージを用いて結果を示している。

図2、表9は「高校を考える際、誰のアドバイスをどの程度参考にするか」という質問への回答結果である。この質問は、4(絶対に聞く)、3(できれば聞きたい)、2(あまり聞かない)、1(聞かない)の4段階の選択式の設

問である。表9には4、3、2、1の各数値に人数を掛け、回答者数で割ったものを「項目別平均」として載せた。図2、表9の双方とも、「塾の先生方」は塾に通っている者のみに聞いているため、母数は全体より少なくなっている。

図2で「絶対に聞く」「できれば聞きたい」と肯定的に答えた割合を合わせると、6月、9月、11月と、全ての時期で「中学校の先生方」が最も多い。「絶対に聞く」と答えた者は、6月、9月と「塾の先生方」が最も多く、53%、50%であったが、11月には「中学校の先生方」

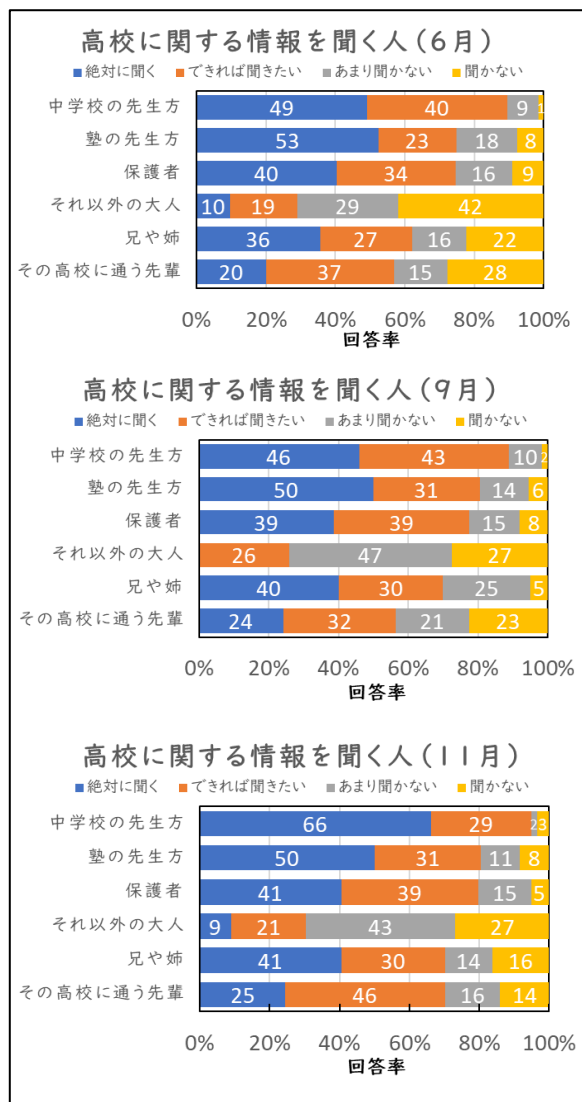


図2 高校に関する情報を聞く人(6,9,11月)

表9 高校に関する情報を聞く人 項目別平均

項目別平均:「(数値×人数)/回答者数」	6月	9月	11月
中学校の先生方	3.4	3.3	3.6
塾の先生方	3.2	3.3	3.2
保護者	3.1	3.1	3.2
それ以外の大人	2.0	2.0	2.1
兄や姉	2.8	3.1	2.9
その高校に通う先輩	2.5	2.6	2.8

が66%と、9月の46%から大幅に増加し、最も多くなっている。「中学校の先生方」と「塾の先生方」には全体的に肯定的な回答が多い。「塾の先生方」に対して「絶対に聞く」「できれば聞きたい」と答えた者の割合が3回にわ

たりほとんど変わっていないことは、「中学校の先生方」と対照的である。塾も学校も、進学に関するアドバイスをもらえるという点でそれぞれ重要視されているが、塾や学校に求める情報の違いが要因と考えられる。塾では実力テストの点数を元に、入試で合格できるかどうかという一般的、総合的な情報を得ることがメインであり、学校ではその生徒の性格や志向に合わせ、内申点も含めた総合的な受験プランや面接対策、小論文対策など個別最適な指導をしている。そのため受験時期が近くなった11月になると学校の指導を頼りとする生徒が増えたと考えられる。

表9の項目別平均を見ると、6月から11月まで「中学校の先生方」の点数が3.4、3.3、3.6と推移し最も高い。「兄や姉」については、2.8、3.1、2.9と、9月に最も高い数値となった。図5で後述するが、9月には約8割の生徒が、志望校を1校に絞っているものの、その半数はまだ不安を抱えている。兄や姉の高校生活から志望校決定のためのヒントを得たいという心理の現れだと考えられる。

図3は「高校を考える際、どんなツールをどの程度参考にするか」という質問への回答結果である。この質問は、4(絶対に使う)、3(できれば使いたい)、2(あまり使わない)、1(使わない)の4段階の選択式の設問である。表10は、表9同様に計算した「項目別平均」である。この年、本県では夏休みの学校説明会やオープンスクールが新型コロナウイルスの影響を受け、延期や中止になったことに触れておく。多くの高校がオンラインで実施したり、代替動画を公開したりしている。図3を見ると、「高校のパンフレット」「学校説明会やオープンスクール」「高校のホームページ」の3項目は、「絶対に使う」「できれば使いたい」の肯定的な回答割合が高いことがわかる。6月、9月、11月と時期を問わず「絶対に使う」と答えられた割合が最も多かったのは「学校説明会やオープンスクール」であり、66%、74%、71%となっている。全体を概観すると、時期が進むにつれて、情報へのア

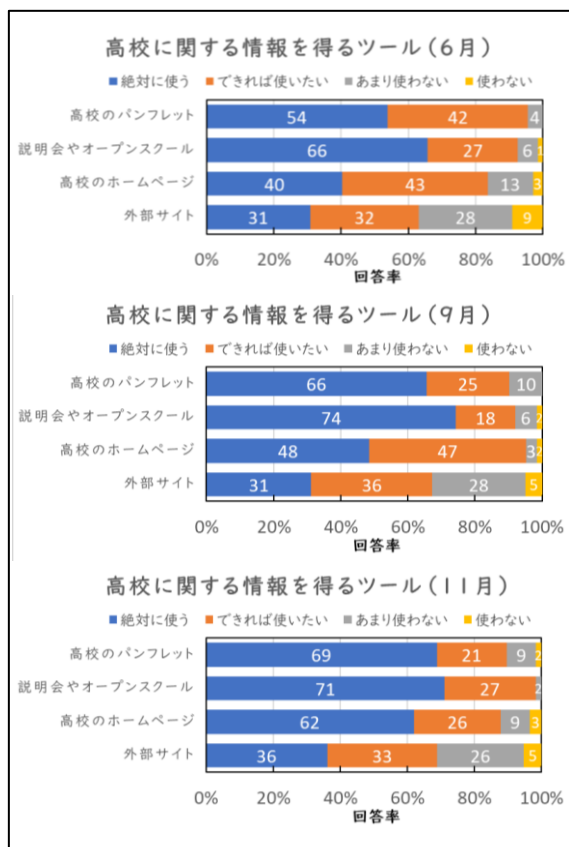


図3 高校に関する情報を得るツール(6,9,11月)

表10 高校に関する情報を聞くツール 項目別平均

項目別平均:「(数値×人数)/回答者数」			
	6月	9月	11月
高校のパンフレット	3.5	3.6	3.6
説明会やオープンスクール	3.6	3.6	3.7
高校のホームページ	3.2	3.4	3.5
外部サイト	2.8	2.9	3.0

アクセスが積極的になっているといえる。パンフレットについては6月から9月の間に「絶対を使う」と答えた者が54%から66%に増加し、高校のホームページについては6月に40%、9月に48%、11月に62%と、時期を追うごとに増加している。外部サイトについてはほぼ変わっておらず、参考にする者とそうでない者がはっきりしているといえる。図4、表11は「高校を選ぶ際、どんなことをどの程度重要視するか」という質問への回答結果である。この質問は、4(とても重要)、3(少し重要)、2(あまり重要でない)、1(全く重要でない)の4段階の選択式の設問である。表11は、表9同様に計算した「項目別平均」で

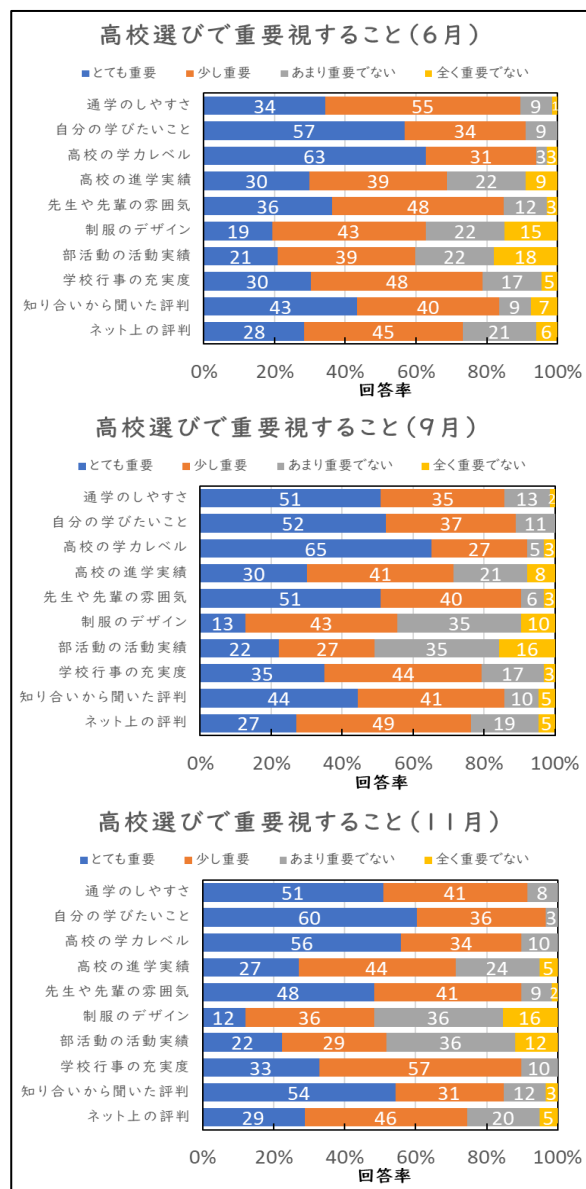


図4 高校選びで重要視すること

表11 高校に関する情報を聞く人 項目別平均

項目別平均:「(数値×人数)/回答者数」			
	6月	9月	11月
通学のしやすさ	3.2	3.3	3.4
自分の学びたいこと	3.5	3.4	3.6
高校の学カレベル	3.5	3.5	3.5
高校の進学実績	2.9	2.9	2.9
先生や先輩の雰囲気	3.2	3.4	3.4
制服のデザイン	2.7	2.6	2.4
部活動の活動実績	2.6	2.6	2.6
学校行事の充実度	3.0	3.1	3.2
知り合いから聞いた評判	3.2	3.3	3.4
ネット上の評判	3.0	3.0	3.0

ある。表 9 で項目別平均値の上昇に注目すると、「通学のしやすさ」「先生や先輩の雰囲気」「学校行事の充実度」「知り合いから聞いた評判」は、時期が進むとともに上昇しており、受験が近くなるにつれ中学生が重要視する項目だといえる。

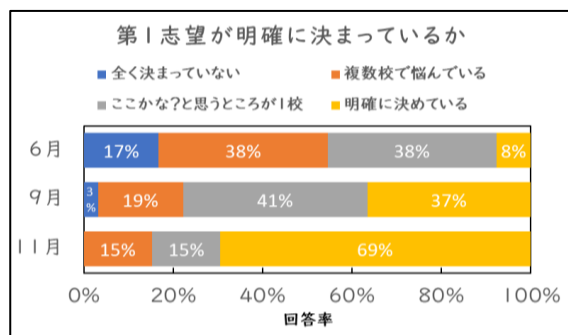


図5 第一志望が決まっているか(6,9,11月)

図5は第一志望についての意識変容の様子である。6月には半数以上が悩んでいた志望校も、9月には約8割が1校に絞っている。また、第一志望を明確に決めている者は、6月に8%、9月には37%、11月には69%まで増加している。夏休み中に数校に絞り、夏休みが明けてから1校に決めることが一般的だといえる。

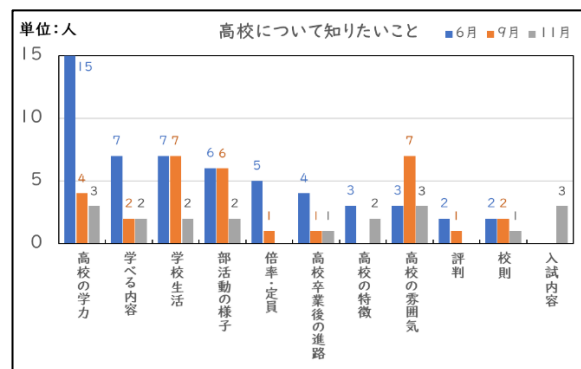


図6 高校について知りたいこと

図6は高校について知りたいことについて記述されたものを分類し、その件数をグラフに表したものである。6月が最も知りたい情報が多く、9月、11月と件数が減っている。特に夏休み明けの9月に減少が見られない「学校生活」「部活動の様子」「高校の雰囲気」などの内容は、パンフレットやホームページの閲覧では解決が難しく、高校生の生の声を聞きたい項目であると考えられる。

図7は今年の中学3年生が利用した資料の

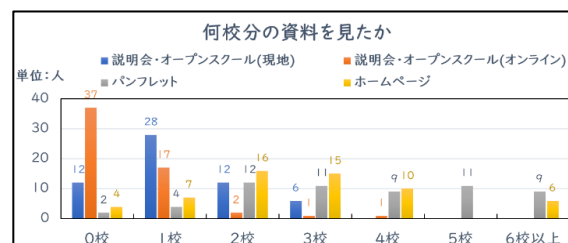


図7 媒体ごとの資料参照件数

数である。高校のパンフレットやホームページを複数校見る者が多い。高校パンフレットは1人平均3.79校、ホームページは1人平均2.86校であった。オープンスクールや学校説明会は現地、オンライン合わせて、1人平均1.67校であったが、これは堀井・佐藤(2022)の調査による山梨県の高校1年生の平均2.46校と比較すると少なく、コロナ禍でオープンスクールが延期や中止となった影響があると考えられる。概して高校パンフレットやホームページを用いて気になる高校の情報を集め、校数を絞って学校説明会やオープンスクールに参加した中学生が多いといえる。

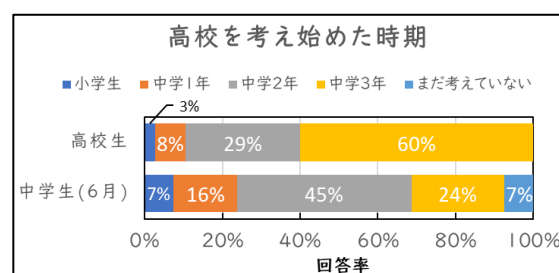


図8 高校を考え始めた時期

図8には高校1年生と中学3年生それぞれの「高校を考え始めた時期」をまとめた。高校1年生のデータは堀井・佐藤(2022)を参考にグラフを作成し、中学3年生は6月のアンケートをもとにした。「中学2年生までに考え始めた」者が中学3年生は約7割、高校1年生は約4割と、3割もの差がある。このデータの解釈は難しいが、パンフレット配布や学校説明会・オープンスクールなどの情報提供の対象が中学3年であるため、高校生の立場になって振り返ってみると、情報が与えられて、「真剣に高校について考え始めた」のは中学3年生だった。ということではないかと捉えている。ただし中学3年生の7割は自覚として

“中学2年生までに高校を考え始めている”と答えていることから、高校に関する資料や適切な機会さえあれば、より早期から進路意識を高められる可能性を示唆している。アンケートを行った際、中学校の先生方から「中学校2年生から進路を考えさせたい」「中学校2年生向けの進路イベントをやってほしい」という声を聞き、強いニーズを感じている。

表12 前期入試を受けたい理由

前期で入学することで高校に入ってから学習を先取りして差をつけて大学を目指したいから
早く合格が決まり時間を遣うところに使えるから
早く決まるから 推薦で受けるから チャンスが2回あるから
チャンスがあれば挑んで早めに決めたいから
面接が少し苦手なので慣れておきたい
部活の実績を生かしたいから 推薦が来たから
B条件で受験し高校では部活を頑張りたいからです
早めに高校の勉強を始めたいから
前期で受けるのも後期で受けるのも、今の状態では五分五分だと先生に言われて、両方とも受けてみようと思ったから
前期で決まっているから できることは挑戦してみたいから

表13 後期入試を受けたい理由

前期試験をしたとしても落ちたら後期試験が難しくなる
前期試験でやる面接がやりたくない 前期ではいけないから
志望校の前期での受け入れ人数がすごく少ないため
前期試験に受かるような才能を持っていない
後期試験に向けてしっかりと勉強をがんばりたいからです
前期は今の自分には無理があるからです
後期の方が合っていると思うから 前期は自信がないから
内申が悪いので前期は無理だから後期しかない
内申点が足りない 前期は落ちた時にメンタルがやられる
前期は成績が足りないし面接が苦手な後期を受けるのは公立高校に進学したいから 前期で行けるほどのことをしていないから
前期の作文面接が苦手だから 前期は向いていない気がする
前期でいっても受からないと思うから
面接が緊張するから安全に後期試験を受けたい
前期が不安だから、無難だから
部活動を続ける気はないので後期で行きたいと考えている
前期での失敗を恐れているので後期の成功率を上げて臨みたい
前期で安定して受かるほどの実績を持っていないから
前期にしてしまうと後からのモチベーションが...

表12、表13には、志望校決定直前期である11月のアンケート「前期入試で受験したいですか、後期入試で受験したいですか、またその理由は？」について、「前期入試で受験したい」「後期試験で受験したい」と答えた者の記述をそれぞれまとめたものである。積極的な記述を緑、消極的な記述を赤で表している。表12を見ると、前期で受験したい者はおおむね前向きであり、一方の表13では後期を受けたい理由として、「前期だと〇〇だから」という記述が多く、後ろ向きであるといえる。特に「後期で受験したい」と答えた者には、「なぜ前期を受験しないのか？」と聞いたわけで

はないことに留意すると、「前期入試＝優秀」というイメージが透けて見える。前期入試では学習以外の面でも中学生の良さや意欲を捉えようとする制度であるが、「良さを捉えよう」としていることが、良い、良くないの二元論的思考を産んでいる可能性がある。

3. 成果と課題

本研究ではOPPシートとアンケートの両面から中学生の進路意識の変容を見取った。OPPシートからは、中学校3年生の夏休み明けに加速度的に進路意識が上昇すること、またその進路意識の醸成に、中学校でのテストや懇談、進路希望調査など中学校での取り組みが大きな役割を果たしていることがわかった。アンケート調査からは、高校を選ぶ上で塾の先生方や保護者などのアドバイスも参考にされていること、情報媒体などを活用しようとする意識も時期と共に変動すること、前期入試を受けようとする者と受けない者の間に存在する意欲の隔たりなどが浮かび上がった。今回の調査では、実態把握を行い、概観を把握することが主となった。この結果を受けて今後、具体的な働きかけ方や、改善策の提案など、さらなる考察と研究が必要である。

4. 引用・参考文献

- 堀井孝・佐藤博（2022）「高校選びの際に重要とされる要素と進学傾向調査— 学力層から見る中学生時の進路意識の比較 —」山梨大学教育実践総合センター研究紀要第27号 pp483-497
- 粕谷 貴志・市来 百合子（2018）「中学生の進路意識に関するモラルの学年比較と関連要因」奈良教育大学教職大学院研究紀要 学校教育実践研究10巻 pp83-87
- 吉野浩一（2012）「中学生の高校選択の現状と高校の情報提供の在り方」政策研究大学院大学修士論文 政策研究大学院大学
<http://www3.grips.ac.jp/~education/education/report/3rd/> 2021年10月27日閲覧
- 山梨県教育委員会（2020）「R2年度 高校改革アンケート 調査結果報告」
https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/koukoukaikaku/documents/r2_ankeito.pdf